

初の海外派遣で活躍

国際交流の大役果たす

日光高アイスホッケー部が、文部省アジア地域スポーツ交流事業の一環として、十二月十五日から十九日までの五日間、韓国に派遣され、同国の高校アイスホッケーチームと交流試合や交歓会を開き友好親善を深めました。

文部省アジア地域交流事業は、日本国民がアジア諸国の国民と国民レベルのスポーツ交流などを通して、相互理解と友好を深める目的で行われるものです。

アジア地域スポーツ交流団団員は、齋藤市長を団長に日光高アイスホッケー部二・三年生二十八人と栃木県アイスホッケー連盟の役員など総勢四十九人。

十二月十五日午前四時二十分、市役所前で結団式が行われ、成田空港から一路韓国へ向いました。

生徒の大半は、もちろん海外が初めて。空港での出国手続きをすませ搭乗。機内の案内も韓国語、英語、日本語の三か国語が併用され、国際線ならではの雰囲気にとりながら、機内食や眼下の景色を二時間余り楽しみました。

訪韓中、アイスホッケーの試合は、ソウル市内の高校三校と行いました。

体力的には韓国チームのほうが優っていました。スピード、技術など総合的に上回っていた日光高チームが、終始優位に試合を進め、十六日は光成高校と対戦し六対一、十七日は景城高校十対五、十八日は徽文高校十三対一と完勝しました。



熱の入った試合を展開

▲試合後、全員そろって記念撮影



▲ホテル内での交歓会

また、余暇時間を利用して学校訪問や、韓国氷球連盟関係者の案内で国立博物館、景福宮、ソウルオリンピック会場などを見学してまわりました。

帰国前夜の十八日は、対戦チームの選手や氷球連盟関係者をホテルに招待して交歓会が開かれ、言葉の不自由さを乗り越え親睦を深めました。

試合の様子は、連日、新聞、テレビで報道されましたが、交歓会にはその新聞も持ち高られ、通訳を通じて内容が高

校生たちに伝えられました。

この五日間、日本の高校アイスホッケー界初の単独チーム海外派遣団員として、韓国を訪れた生徒や県アイスホッケー連盟関係者にとっては、日本と異なる歴史や、文化、風俗に、身をもって接することができました。

この貴重な体験は、今後、単にアイスホッケー界だけでなく、地域づくりや国際交流にも多に役立つものと期待されています。